

子どものソケイ部、陰のうに多い病気

(ソケイヘルニア、交通性陰のう水腫、精索水瘤)

病気の説明

子どものソケイ部、陰のうに多い疾患としてソケイヘルニア、交通性陰のう水腫、精索水瘤などがあります。また緊急の治療を要する嵌頓ヘルニアや精巣捻転があります（急性陰のう症と言います）。ソケイヘルニア、交通性陰のう水腫、精索水瘤の原因はとても似ています。精巣は妊娠29週目頃に陰のうに降りてきますが、この時に腹膜も一部一緒に降りてきます。これが腹膜鞘状突起（ふくまくしょうじょうとっき）と呼ばれるもので、通常は出生時まで閉じてしまいます。しかし、閉じずに腸が出入りしてしまいますとソケイヘルニア、精巣や精索の周囲に水が溜まると交通性陰のう水腫、精索水瘤と呼ばれます。通常乳児にもっとも多くみられますが、自然に軽快することも少なくありません。また、精巣の機能に影響が出ることもありません。通常は、痛みもありません。一旦閉じても、再び開くことが、稀にあります。

症状

陰のう水腫、精索水瘤の唯一の症状は、精索や陰のうが腫れることです。成人男性では、陰のうを重く感じるがありますが、小児ではそれほど大きくなることは稀です。手術後に再発することは0.1~0.5%程度で稀です。

治療

獨協医科大学埼玉医療センター小児泌尿器科では、開腹手術で治療を行っています。手術時間は約1時間です。手術は全身麻酔で行いますので麻酔の時間を含めると2時間くらいになります。腹腔内と交通している腹膜鞘状突起を結紮して切断し、腹水の流入や腸の出入りを防ぐことを目的とします。手術は、傷が目立たないようにお腹の下のシワに沿って横に1-2cm切開して行います。

この治療に伴う危険性とその発生率

- 1) 術後の出血、血腫が時々あります。稀に再手術が必要となることがあります。
- 2) 創部の感染が時々ありますので、抗生剤投与を予防的に行います。
- 3) 術後 2-3 日痛みがありますので、鎮痛薬で対応します。
- 4) 水腫の再発が稀にあります。0.1~0.5%程度とされています。
- 5) 陰嚢にむくみが出ますが、時間とともに引いて行きます。

治療後の外来診察

術後 1 週間程度後に、外来で手術後の傷の状態の確認をします。吸収糸を使用しているため抜糸はしません。糸の周りが腫れたり膿んだりした時だけ抜糸します。